

# Osaka Metro Group

2020年度（2021年3月期）第3 四半期決算



2021年2月12日

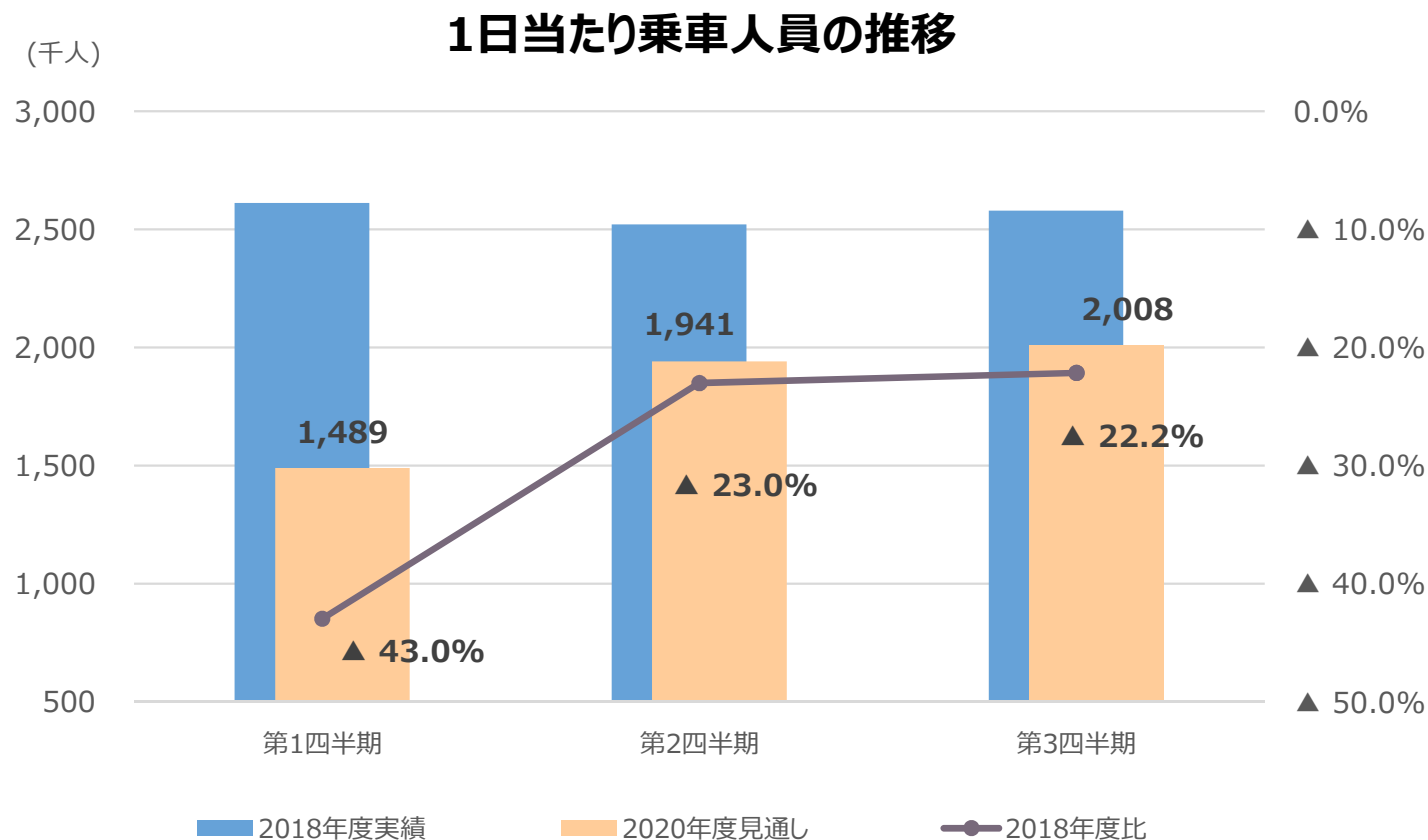


## 第3 四半期決算

- (1) 経営環境（新型コロナウイルス感染症の影響）**
- (2) 連結損益計算書（総括）**
- (3) 増減要因分析**
- (4) セグメント別の状況**
- (5) 連結貸借対照表、連結キャッシュフロー計算書**

# (1) 新型コロナウイルス感染症の乗車人員への影響

鉄道の乗車人員は、第2四半期から引き続き回復基調にあったが、11月後半に入り新型コロナウイルス第3波の影響を受け、第3四半期は横ばい傾向となった。



#### 【 2018年度比での1日当たり乗車人員の推移】

定期 : 第3四半期は▲10%。

定期外 : 第3四半期は▲28%。

## (2) 第3四半期(10-12月) 連結損益計算書 (総括)

(単位：億円)

					【参考】3Q累計			
	2020年度 3Q実績	2019年度 3Q実績	増減	増減率	2020年度 3Q累計実績	2019年度 3Q累計実績	増減	増減率
営業収益	368	469	▲100	▲21.4%	1,000	1,415	▲414	▲29.3%
営業利益又は営業損失(▲)	16	120	▲104	▲86.8%	▲37	321	▲358	—
営業外収益	4	4	+0	+5.6%	9	8	+1	+7.6%
営業外費用	1	1	▲0	▲7.4%	4	4	▲0	▲6.2%
経常利益又は経常損失(▲)	19	122	▲103	▲84.7%	▲33	324	▲357	—
特別利益	2	6	▲5	▲70.5%	13	20	▲7	▲34.4%
特別損失	10	0	+10	—	20	13	+7	+50.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は純損失(▲)	10	86	▲76	▲88.7%	▲26	221	▲246	—

### (3) 第3四半期(10-12月) 営業収益・営業損益 対前年増減要因

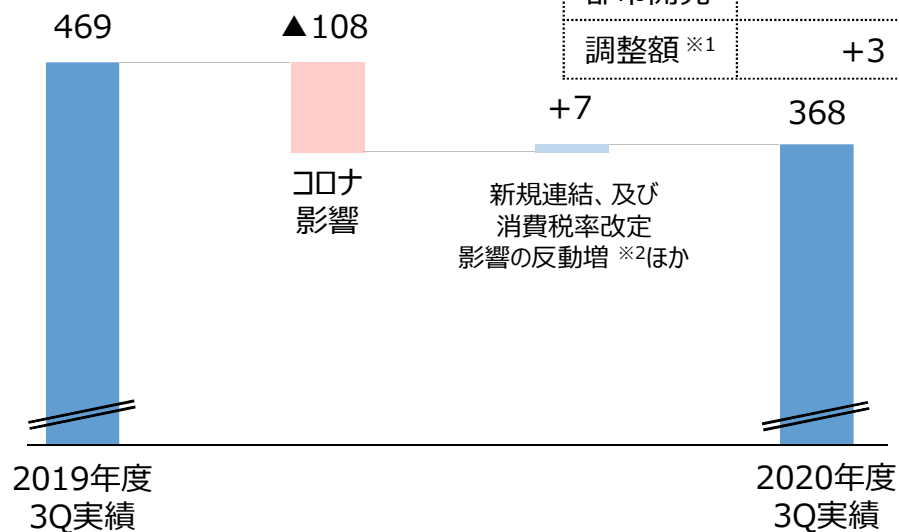
営業収益は、新型コロナウイルス感染症のグループ全体への影響により減収となったが、  
営業損益は、コスト縮減等により黒字を確保

#### 営業収益

(単位：億円)

○ コロナ影響内訳

鉄道	▲97
バス	▲6
広告	▲4
流通	▲4
都市開発	-
調整額※1	+3

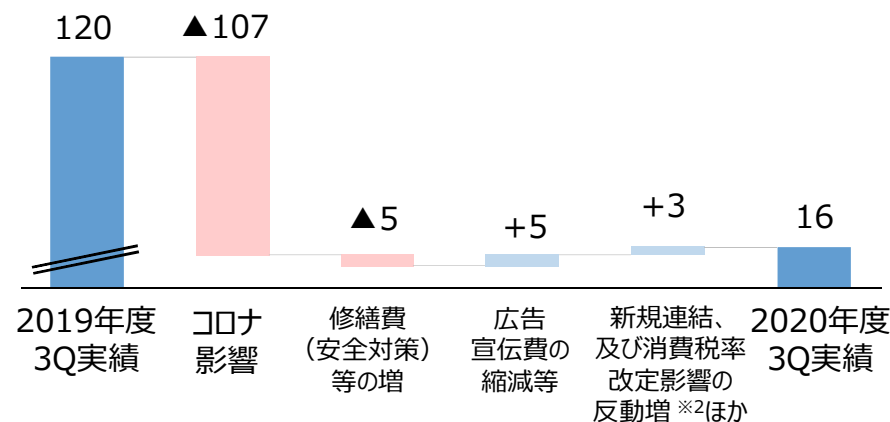


#### 営業損益

(単位：億円)

○ コロナ影響内訳

鉄道	▲97
バス	▲7
広告	▲1
流通	▲2
都市開発	-



※1 「調整額」は、グループ内の内部取引をいいます

※2 前年度は、消費税率改定に伴う運賃改定(10月)に際し、9月に定期券の先買いがあり、10月以降はその反動による営業収益の減少が生じておりました

### (3) 第3四半期(10-12月) 営業収益・営業損益 対前四半期増減要因

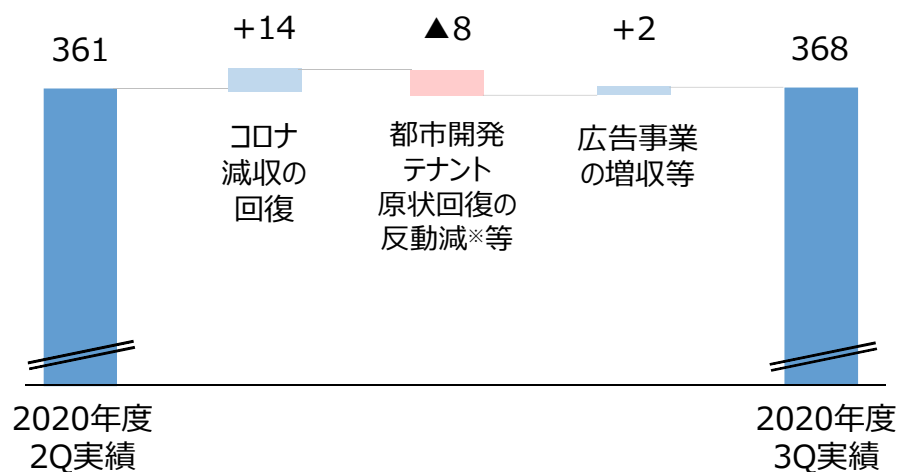
11月後半からの新型コロナウイルス感染症第3波の影響や安全・安心にかかる対策を計画通りおこなったことによる修繕費等の増加はあったものの、鉄道事業を中心に前半はご利用が回復基調にあったことや固定費を中心とした諸経費の圧縮により、増収・増益

#### 営業収益

(単位：億円)

○ コロナ影響内訳

鉄道	+12
バス	+2
広告	+1
流通	▲1
都市開発	-

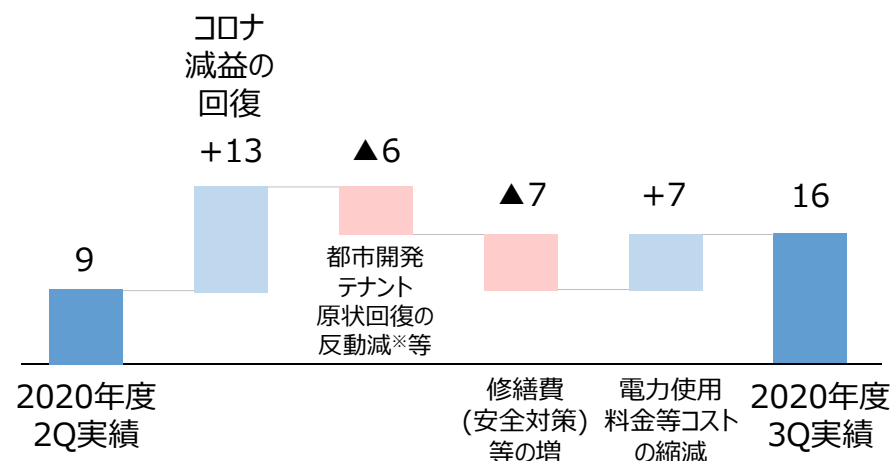


#### 営業損益

(単位：億円)

○ コロナ影響内訳

鉄道	+12
バス	+2
広告	+0
流通	▲2
都市開発	-



## (4) 第3四半期(10-12月) セグメント別の状況

(単位：億円)

【参考】3Q累計

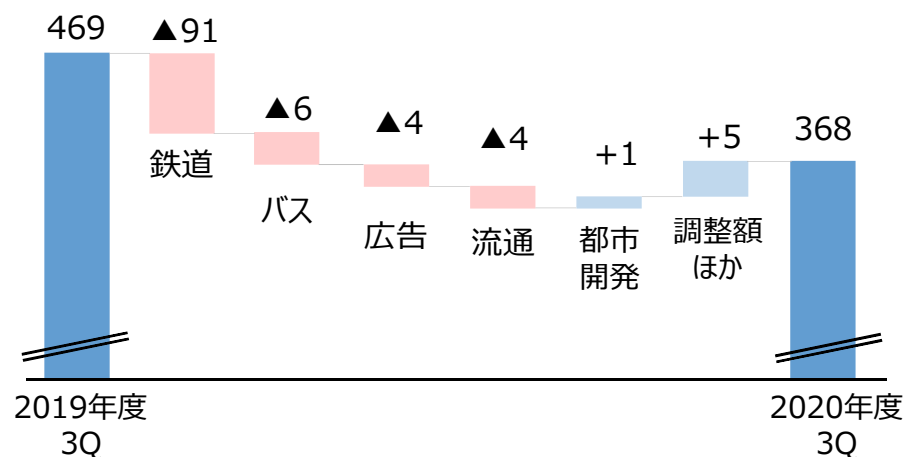
		2020年度 3Q実績	2019年度 3Q実績	増減	増減率	2020年度 3Q累計実績	2019年度 3Q累計実績	増減	増減率
鉄道事業	営業収益	313	404	▲91	▲22.5%	843	1,222	▲379	▲31.0%
	営業損益	12	104	▲92	▲88.6%	▲47	273	▲320	-
バス事業	営業収益	27	33	▲6	▲18.5%	76	103	▲27	▲26.0%
	営業損益	▲3	4	▲7	-	▲13	14	▲27	-
広告事業	営業収益	8	13	▲4	▲34.7%	23	35	▲12	▲34.1%
	営業損益	1	3	▲2	▲50.9%	4	8	▲4	▲46.2%
流通事業	営業収益	28	33	▲4	▲13.3%	75	95	▲19	▲20.4%
	営業損益	5	7	▲2	▲33.9%	8	21	▲13	▲60.5%
都市開発事業	営業収益	4	4	+1	+23.0%	20	11	+9	+85.8%
	営業損益	0	1	▲1	▲59.0%	9	3	+6	+171.4%
調整額ほか	営業収益	▲13	▲18	+5	-	▲38	▲51	+13	-
	営業損益	1	1	▲0	▲34.5%	1	1	▲0	▲12.0%
営業収益合計		368	469	▲100	▲21.4%	1,000	1,415	▲414	▲29.3%
営業損益合計		16	120	▲104	▲86.8%	▲37	321	▲358	-

- 1) 各セグメントの営業収益・営業損益は、内部取引消去の配分を行っていません
- 2) 「鉄道事業」には、コーポレート、デジタルマーケティング、MaaSを含みます
- 3) 「鉄道事業」と「広告事業」・「流通事業」間の施設賃借料収入・費用が、各事業の営業収益・営業損益に含まれております
- 4) 「調整額ほか」は、グループ内受託事業および内部取引をいいます

## (4) 第3四半期(10-12月) セグメント別の対前年増減状況

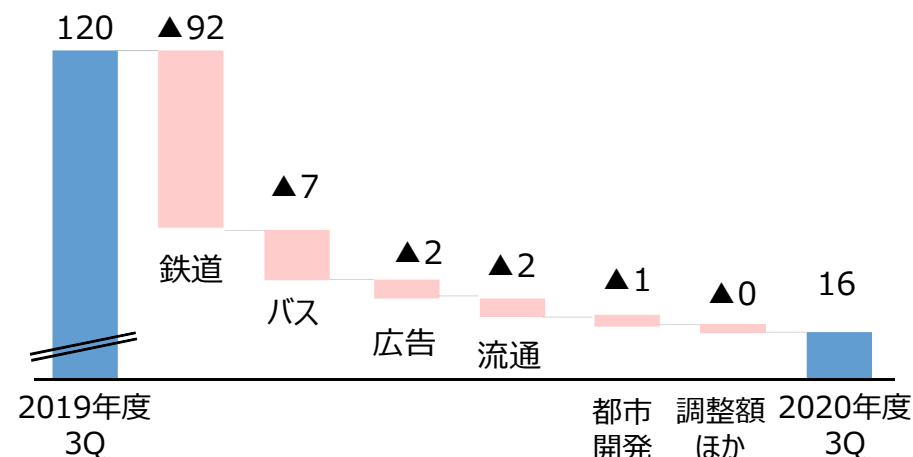
### ■ 営業収益

(単位：億円)



### ■ 営業損益

(単位：億円)



### ■ 主な増減要因

	営業収益・営業損益
鉄道	営業収益：コロナ影響(▲97億円)による減収 営業損益：コロナによる減収要素のほか、安全・安心のための修繕費やコロナ対策費用の増加等(+1億円)により減益
バス	営業収益・損益：コロナ影響(▲6億円)による減収・減益
広告	営業収益・損益：コロナ影響(▲4億円)により減収となったが、コスト縮減効果により減益幅を圧縮
流通	営業収益・損益：コロナ影響等による賃貸料収入の減(▲4億円)等により、減収・減益
都市開発	営業収益・損益：新規物件稼働による賃貸料収入増により増収となった一方で、解体工事等の費用増(+1億円)により、減益



## (4) 第3四半期(10-12月) セグメント別の対前四半期増減状況

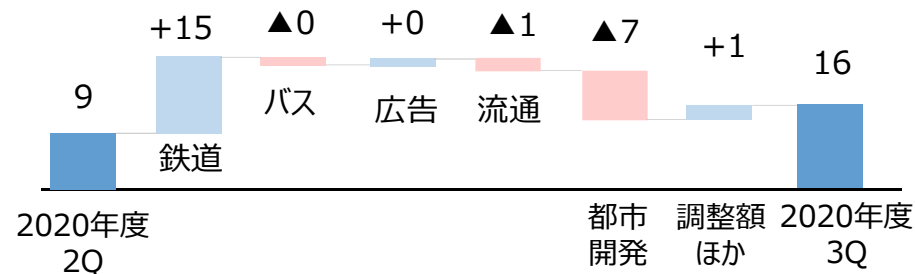
### ■ 営業収益

(単位：億円)



### ■ 営業損益

(単位：億円)



### ■ 主な増減要因

	営業収益・営業損益
鉄道	営業収益：コロナ第3波の影響はあったものの、第3四半期前半は回復基調にあったため増収 営業損益：安全のための修繕費の増加はあったものの、夏季冷房利用に伴う動力費などの反動減もあり、営業費用全体として減少(▲2億円)し、増益
バス	営業収益・損益：第3四半期前半の回復基調があったものの、コロナ第3波の影響があったため、営業収益・営業損益ともに、ほぼ横ばい
広告	営業収益・損益：割引キャンペーン等の増収努力によって増収となり、黒字を確保
流通	営業収益・損益：コロナ第3波に伴う賃貸料収入の減(▲1億円)等により、減収・減益
都市開発	営業収益・損益：第2四半期のテナント原状回復工事相当額の収入の反動減(▲6億円)により減収・減益

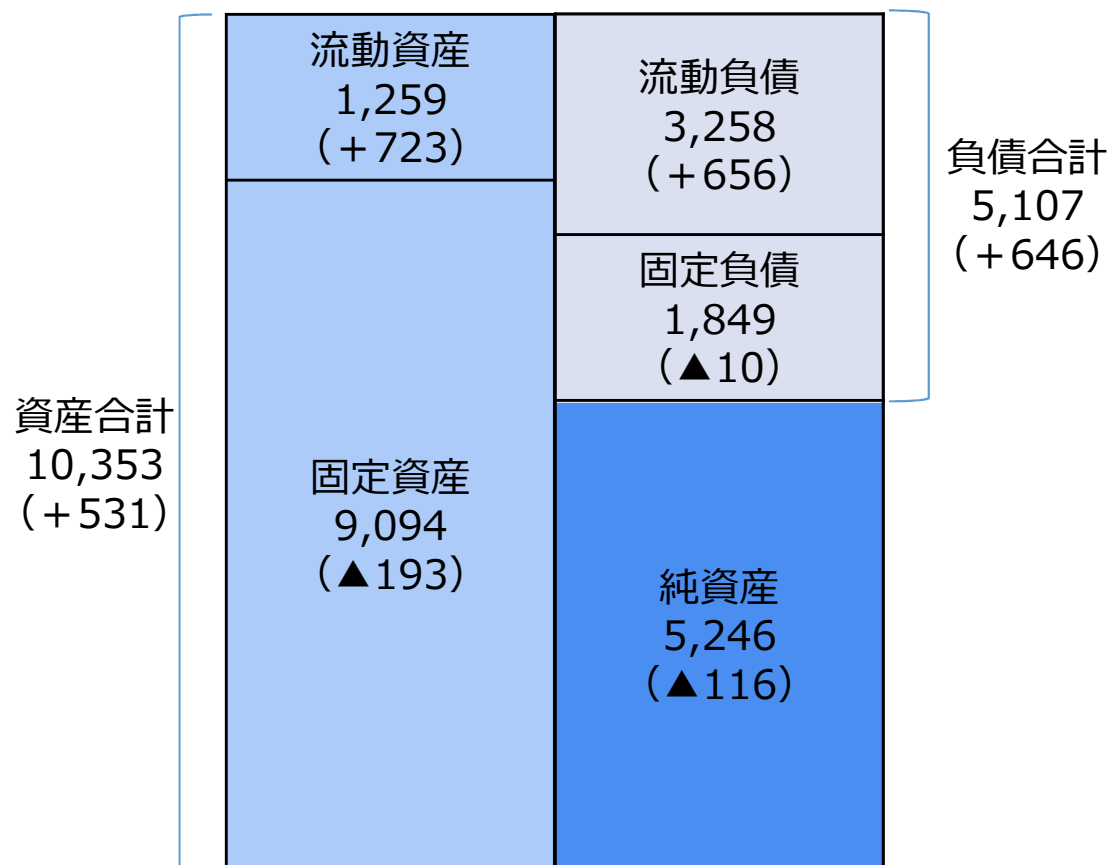
## (5) 連結貸借対照表、連結キャッシュフロー計算書

先行き不透明な中、経営の安定性を維持するため、十分な手元資金を確保。

### 連結貸借対照表

\* 12月末時点

単位: 億円



( ) 内は2020年3月末からの増減額

### 連結キャッシュフロー計算書

単位: 億円

